

表3 介護力判定表

判定項目		点数
A 介護知識	あり…1点	A 点
	なし…0点	
B 介護技術	あり…1点	B 点
	なし…0点	
C 介護意欲	あり…1点	C 点
	なし…0点	
A × B × C の掛け算が 0 点のときに介護力なし		介護力判定… あり ・ なし

あり」, どれか1因子でもない場合(0点)は, その段階では「介護力なし」と判断します。

あとは, OH スケールリスクランクに応じて3段階でマットレスの機能を強化していきます。介

護力がある場合とない場合それぞれに応じて, リスクが高ければ, マットレス機能を高めることで, 適切なマットレス選びが誰でも自信を持ってできるようになります。

OH スケールの採点方法

OH スケールの各評価項目について, 詳細に説明します。

自立体位変換能力

患者(利用者)自身の力で, 意識的あるいは無意識的かを問わずに, 身体に加わった圧力とずれ力に対して有効に体位を変え, 軟部組織の血流を改善できるかを判定します。健常人と比べてもまったく問題ない場合を0点, 自力ではまったく動けない場合を3点とし, その中間であるどちらでもない場合を1.5点と判定します。

たとえば, 患者(利用者)自身が, 意識不明で人工呼吸が必要な場合と比べてみて, 同じ程度なら3点とつけます。また, 座ってテレビに夢中になっている人の場合, 動く能力はあっても誰かが声をかけるまで動かないとすればこれも3点になります。この2つの場合と比べて, そこまで動かない

わけではないと考えられれば, 「どちらでもない」として1.5点と判定します。

これはすべての判定に共通することですが, 迷ったら高い方を選びましょう。この方針で判定すれば, ①自立体位変換能力は10秒以内に判定できます。

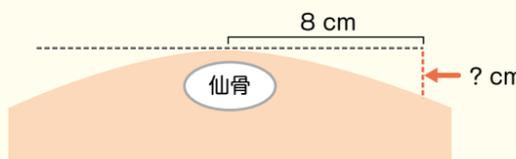
病的骨突出 (図1)

基本的には側臥位で下肢を伸ばし, 少しうつ伏せ気味の体位で計測します。判定する位置は仙骨の中央で骨が一番後方に飛び出した部分とし, 脊柱に直行したライン上で仙骨部がどの程度飛び出しているかを計測します(図1A)。この判定には専用の判定器(図1B)を使うと便利です。

健康な状態では, 仙骨の中央部は左右の臀筋や皮下脂肪などが骨の突出部よりも飛び出しており, 外力が仙骨部に集中しないようにできています。

A 測定方法

仙骨中央部より8 cm 外側において, 臀部が仙骨部からどれくらい低いかで判定する



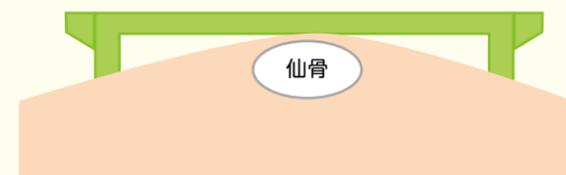
骨突出	なし…0点	仙骨部は凹んでいる
	軽度・中等度…1.5点	0 cm 以上～ 2 cm 未満
	高度…3点	2 cm 以上

C 判定基準

A なし：隙間がある状態 (0点)



C 中程度：ベンチ状態 (1.5点)



B 測定器



B 軽度：ほぼ平らな状態 (1.5点)



D 高度：シーソー状態 (3点)



図1 病的骨突出の判定基準

つまり, 身体にクッションがついている状態です。図1Aは, 正常で骨突出がない場合です。この場合はかえって仙骨部は凹んでいます。つまり, 左右の臀部の頂点と仙骨自体の骨形状が飛び出している部分(尾骨の先端から, 指4本分頭側へ移動した位置)を比較するように判定器の真っ直ぐな方を当てると, 中央に空間が観察できる状態です。この状態を0点とします。そして仙骨を守るクッションが失われ, 凹みがなくなった状態を1.5点

(図1B, C), 仙骨部が明らかに飛び出していて, 骨突出部から左右の8 cm 離れた部分と2 cm 以上の高低差がある状態が3点です(図1D)。

専用の判定器を用いた場合は, 仙骨部中央部に当てたときに左右の一方の脚でも浮くと3点, 両方の脚がついていると1.5点とみなします。

浮腫 (むくみ)

浮腫とは, 皮下組織内に組織間液が異常に貯まっ